

2010.9.8訪問



青年部員の 事業所に行きつた 聞いてきた

第十六回 石原商店さん

今回は、岐阜市長森で紡績原料加工業 株式会社石原商店」を経営されている石原明さんを訪問してきました。

(文・安藤博之)



訪問してみても工場の中で、大きな機械からモコモコと大量の毛玉(?)が出ていました。最初は、何を作っているか分かりませんでした。話を聞いて、これはすごいものだとなりました。

異業種産業への チャレンジ!

石原商店は昭和49年に現社長(青年部員)のおじいさんが創業。主に、ネップ系と呼ばれる毛玉のついた糸の毛玉部分を製造しています。小さな繊維の塊を糸に付着させることで、ポアポアの靴下やスカートなど暖かい風合いをもった製品ができます。



「オノのノウハウ」について教えてください

うれしいと思うことは何ですか?

自分の会社で作ったネップで作った商品が、雑誌で紹介されたり、量販店で売られているのを目にした時。

今、日本のアパレル企業で勝ち組と言われている某有名メーカーの商品にも石原商店さんのネップが使用されているそうです。

仕事を通じて学んだ事は?

今さら当たり前のことですが、納期は必ず守る事!

日本に数社しかないネップ工場。先代が社長をしていたバブルの頃は、24時間工場が稼働し、嫌な仕事は断るぐらいの気構えでやれていたそうです。ですが近年は、中国にもネップを作る工場が出来、メーカーが在庫を持たなくなったため、納期が短く、ロットが小さい仕事が普通になり、より堅実な仕事が求められているそうです。

聞いてなっとク ココだけの話

今後の事業の発展について

現在、ネップをビルの屋上緑化の土壌に利用するという、建築資材としての利用が、全体の2割ほどになっているそうです。

土とネップを混ぜる事により普通の土より軽く、また水を適度に吸いながらも品質に劣化がないため、身近なところでは岐阜メモリアルセンターの壁面緑化などで採用されています。今後これまでに以上に、ネップが入った土の良さをアピールしていくとともに、他の分野での使い道も含め、可能性を探っていきたいと力強く語っていた事が印象的でした。

